

## 1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

当該学年の前年度偏差値を、各教科で前年度以上全体で1ポイント以上上げる。

## 3. 指標にむけての取組

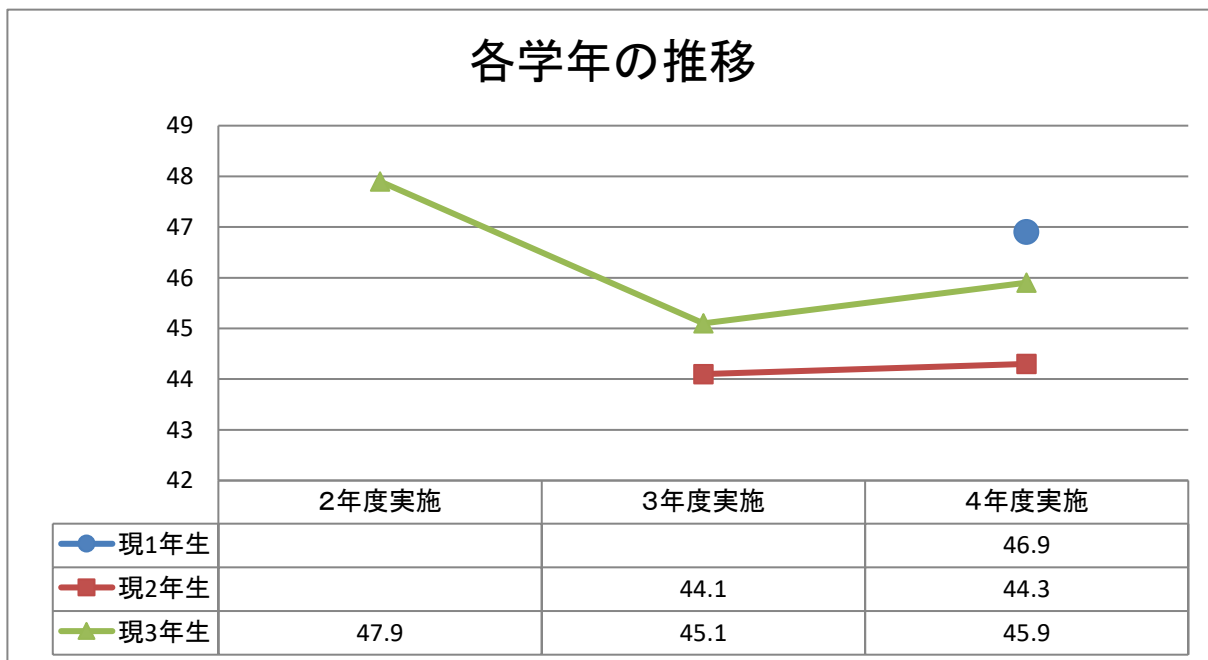
- 少人数指導や個別指導、習熟の程度に応じた指導、学力実態の分析に基づいた個に応じた指導を行う。
- 朝学習や自学ノート、週末課題を徹底し、家庭学習の定着を図る。
- 基礎・基本の定着を図るために、定期テスト前のチャレンジタイム、テスト後のフォローアップタイムを行う。

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	30年度	31年度 (元年度)	2年度	3年度	4年度
本校(A)	50.3	48.9	48.7	45.7	45.7
嘉麻市(B)	49.3	48.8	48.6	47.1	46.0
(A) - (B)	1.0	0.1	0.1	-1.4	-0.3
標準偏差値との差 (A) - (50)	0.3	-1.1	-1.3	-4.3	-4.3

### 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

- 2、3年生ともに昨年度の結果より下がることなく2年で0.2p、3年で0.8p上昇できた。
- 3年生は、2年生の冬休みまで各種テスト結果での落ち込みが見られたが、3年生に向けてどの教科も上昇している傾向があり、今後も持続させたい。
- 学年が上がるごとに成績が下がる傾向にあったが、本年度の2年生は大幅に下がることがなかった。本校での取組が学力の低下を食い止める成果があったと考える。
- 低位層の割合が高いので、基礎・基本を定着させる取組みがさらに必要である。
- 1年生は現状の成績を維持・向上するために家庭学習の定着などが必要である。

## 6. 各学校における今後の取組

- 習熟の程度に応じた指導や発展的な学習、補充的な学習の工夫等、学力実態の分析に基づいた個に応じた指導の充実を図る。そのために、各種テストの分析、課題共有の時間を設ける。
- 基礎基本の定着を図るために、定期テスト前後のチャレンジタイム、フォローアップタイムの充実させる。
- 国・数・英の基礎内容を朝学習で行うことで、学習への意欲付けにつなげる。
- 家庭学習の定着を図るために、自学ノートと、週末課題の取組を継続しておこなう。また、学習専門委員会(生徒会)を中心に自学ノートコンクール等を実施し、生徒間での評価と意欲付けにつなげる。
- 「問いづくり」「思考づくり」「価値づくり」を位置づけて授業改善をすすめ、「書く活動ポイント9」などを参考にしながら、生徒の思考・判断・表現力の育成につなげる。
- ICT機器(カスタ等)を積極的に活用し、生徒自ら学べるような環境づくりをすすめる。

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
- ◆嘉麻市学力向上推進員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。